

## カラスの知恵

カラスというのは、とかく評判が良くありません。カラスに責任があるわけではありませんが、真っ黒な身体で、ワーワー鳴いている姿は、とても可愛いとは思えません。

「烏合の衆」という言葉があるように、カラスは規律も統制もなく、ただより集まって騒ぐだけの存在とされているようです。でも、電線の上に何羽も留まって鳴いているカラスを見ていると、ただ集まって騒いでいるというより、むしろ集団としての統制が取れているのではないかと感じる時があります。

また、最近では、我が家の庭先にも飛んできて、凶々しくも小鳥用の餌台を覗き見しています。これでは小鳥たちが可哀想だというわけで、カラスを追い払おうとするのですが、カラスの方は我関せずという態度で誠に憎たらしい限りです。とはいえ、後で仕返しされたらいやですので、余りに厳しく追い立てたりもできません。

カラスを見ていて、どうしても好きになれないのは、身体が大きいとか、鳴き声が可愛くないということよりも、ゴミ箱を漁ったりと人間にとっては誠に迷惑なことをするだけでなく、頭が良くて、我々の方が知恵比べをされているようで腹立たしい、ということもあるのではないかと考えています。

このように、私にとっては気に食わぬカラスですが、世の中には、そんなカラスの生態を一生懸命に研究している方がいらっしゃいます。昨年の暮れ頃から、そんな研究者の方々の研究成果が幾つか報道され、私も、カラスの見方を変えなければいけないなと感じているところです。

昨年の10月、宇都宮大学農学部の杉田昭栄教授のグループが、餌を使った実験で「カラスは数の大小を認識できる」ということを解明したとの報道がありました。

数について、人間と同じような思考を持っている可能性があるということですから驚きです。

また、昨年の11月には、ドイツのマックス・プランク鳥類研究所などが、「カラスは身振りで会話している」ことを突き止めたとの報道がありました。

カラスは、物を見せたり差し出したりする身振りを通して仲間の注意を惹き

つけたり、嘴にくわえた小枝や小石を突き出したり傾けたりして仲間に見せる仕草をすると、多くの場合仲間は近寄ったり、一緒に物を扱ったりするなど友好的な反応を示したといます。カラスも、ちゃんと仲間とのコミュニケーションを取りながら生活しているということです。

更に、去年の12月には、前述の宇都宮大学農学部の杉田教授のグループが、「カラスは少なくとも1年間は色を記憶できる」ことを突き止めたとの報道がありました。

杉田教授は、「色彩を1年間覚えているのは人間でもなかなか難しいことで、記憶の一側面では人間より優れている可能性がある」としています。これではとても、カラスを馬鹿にはできません。

そして今年の1月には、慶応大学の研究チームが、「カラスは、鳴き声や姿で仲間を認識しており、相手の姿からそのカラスがどんな鳴き声か予測しているらしい」という報道がありました。「顔かたち」と「鳴き声」を関連させて記憶するだけでなく、「顔かたち」から「鳴き声」を予測するというのは、カラスにも想像力があるということで、これは凄いことだと思います。

こうしてみると、今まで、カラスをつかまえて烏合の衆などといってきたのは、誠に失礼なことでした。

カラスには、まだまだ未知の能力を秘めている可能性があり、今後の研究の成果が楽しみではありますが、最近、カラスの表情(?)を見ると妙に自信ありげに見え、どうもこちらの方が値踏みされているように感じるのは、単なる私の気のせいでしょうか。(塾頭 吉田 洋一)